

# 環境報告書2021

Environmental Report 2021



国立大学法人 山梨大学  
UNIVERSITY OF YAMANASHI

## 目次

学長トップメッセージ	・ ・ ・ ・ ・	1
大学概要	・ ・ ・ ・ ・	2
環境方針（山梨大学環境宣言）	・ ・ ・ ・ ・	3
主要な事業所	・ ・ ・ ・ ・	4
環境活動の体制	・ ・ ・ ・ ・	5
環境配慮の目標	・ ・ ・ ・ ・	6
環境配慮目標達成のための取組	・ ・ ・ ・ ・	7
事業活動に伴う環境への負荷	・ ・ ・ ・ ・	8
環境関連法への対応状況	・ ・ ・ ・ ・	10
環境配慮に係る教育	・ ・ ・ ・ ・	11
環境配慮に係る研究	・ ・ ・ ・ ・	12
学生の活動	・ ・ ・ ・ ・	16

## 学長トップメッセージ

山梨大学は、南方に世界文化遺産の富士山、北方に八ヶ岳、西方に南アルプス連峰を望む、風光明媚な景観と、日本一長い日照時間や豊富な水資源など、自然豊かな落ち着いた環境の中で、「地域の中核、世界の人材」を掲げ、世界を視野に入れた最先端の医工農融合研究を推進するとともに、その成果に基づく高度な教育を通じて、地域社会の中核として地域の要請に応えることができる人材、世界を舞台に活躍できる人材の養成を図り、社会に貢献することを目指しています。



国立大学法人山梨大学  
学長 島田 眞路

本学では、先端的研究成果を基盤に、学生の教育を行い、全教職員が協力して、広い視野と優れた道徳的及び専門的能力を持つ人材の育成に情熱を持って努めています。甲府キャンパスでは、樹木等の環境改善を、理事を含むメンバーで行っております。

教育学部では、教職・教科に関する専門知識・技能の基本を身につけ、自然科学教育などを通じ環境に配慮できる教育者の養成に取り組んでいます。

医学部では、生涯にわたって医学的知識、技術の修得に努め、地域社会・国際社会の保健医療・福祉に貢献する人材および疾患の原因解明や治療法の開発に寄与できる研究者の養成に取り組んでいます。

工学部では、環境と調和した社会の実現を担う技術者を養成するため、環境に配慮した社会基盤の整備・管理、低環境負荷材料の開発、クリーンエネルギー技術の開発など、各分野における専門知識と問題解決力を備え、持続可能な社会基盤の構築に貢献する人材の養成に取り組んでいます。

生命環境学部では、生命・食・環境・経営分野の教育研究において互いに連携し、さらに医学部や教育人間科学部とも連携した諸学融合の教育研究を推進しています。これにより、地域社会から国際社会に至る普遍的な課題である「食と健康」及び「生命と環境」に関わる複雑で多様な課題の解決のために貢献する人材の養成に取り組んでいます。

さらに、本学は大学院附属施設として、国際環境流域研究センターを有し、水資源の枯渇、水災害、水環境の悪化、水に起因する病気などの解決に必要な研究において国際ネットワークを形成しながら進めているほか、学内共同教育研究施設としてクリーンエネルギー研究センターと燃料電池ナノ材料研究センターを有し、我が国のクリーンエネルギー分野の研究・人材育成の中心拠点としての役割を担っております。

また、医学部附属病院では、再整備を進めており、環境負荷軽減に配慮して平成27年度に第Ⅰ期病棟、令和2年度に第Ⅱ期病棟が竣工し、現在は、第Ⅲ期病棟及び中央診療棟の整備を進めております。

山梨大学は、今後も引き続き国内外におけるエネルギー・環境問題の解決に貢献する人材の育成並びに先端的研究を推進してまいります。また、令和元年度に設立し、令和3年3月に大学等連携推進法人として全国で初めて認可された「一般社団法人大学アライアンスやまなし」においても教育環境活動を通して地域社会及び国際社会の発展に貢献していく所存です。

## 大学概要

(2021年5月1日現在)

名 称 国立大学法人山梨大学

大学案内 <http://www.yamanashi.ac.jp/about>

### 【学 生 数】

区分		男	女	計
学部	教育学部(教育人間科学部)	259	278	537
	医学部	601	401	1,002
	工学部	1,389	196	1,585
	生命環境学部	324	304	628
	学部合計	2,573	1,179	3,752
大学院	大学院教育学研究科(修士課程)	0	1	1
	大学院教育学研究科(教職員大学院の課程)	54	19	73
	大学院医学工学総合教育部(修士課程)	0	0	0
	大学院医学工学総合教育部(4年博士課程)	12	3	15
	大学院医学工学総合教育部(3年博士課程)	3	5	8
	大学院医工農学総合教育部(修士課程)	404	126	530
	大学院医工農学総合教育部(4年博士課程)	82	29	111
	大学院医工農学総合教育部(3年博士課程)	93	44	137
	特別支援教育特別専攻科	2	8	10
	大学院・専攻科合計	650	235	885
その他(研究生、科目等履修生、特別聴講学生)		33	17	50
総合計		3,256	1,431	4,687

※平成28年4月の教育組織改編により、教育人間科学部は教育学部、大学院医学工学総合教育部は大学院医工農学総合教育部に名称変更

### 【教 職 員 数】

区 分	計
学 長 ・ 理 事 ・ 監 事	8
教 員	629 (216)
事 務 職 員 等	743 (528)
合 計	1,380 (744)

※常勤職員のみ

※( )は特任教職員等の数で外数

【敷地面積】569,278 m<sup>2</sup>

【建物延面積】269,257 m<sup>2</sup>



## 環境方針（山梨大学環境宣言）

### （基本理念）

人類が21世紀をより良く生きるためには、人間の社会的行動によって起こる地球環境への負荷を軽減し、物質循環を基本とするゼロエミッションの社会を構築する必要があります。このような持続性のある循環型社会を構築し、維持していくことは私たちの責務であり、これらに向けた取り組みは必要不可欠であります。

本学では、よりよい環境を目指して、教育及び学術研究の面から地球環境の向上に貢献するための環境活動を実施するものであります。

### （基本方針）

本学は、基本理念を実現するために、職員及び学生など、本学に関わる全ての人々の協力のもとに、それぞれの立場で「個人として」、「組織として」、自発的・積極的に環境活動に取り組みます。

- (1) 地球環境の保全・改善活動を推進するために、教育及び学術研究活動を通じて、循環型社会を担う21世紀に必要な人材を育成するとともに、教育啓発活動を積極的に展開します。
- (2) 環境目的及び目標を設定し、環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。
- (3) 循環型社会の実現を目指し、廃棄物の減量化、再利用、リサイクルなどにより、省資源・省エネルギーに取り組み、環境維持・改善と汚染予防につとめます。
- (4) 適用される環境関連の法規、規制、協定、自主基準などを遵守します。
- (5) 山梨県における環境活動に積極的に参画し、地域環境の保全・改善活動を支援します。
- (6) この環境宣言は文書化し、大学ホームページなどを通じて、職員・学生など、本学に関わるすべての人々に周知するとともに、地域社会へも公開し、また、環境活動への取り組みを公表します。

制定：2002年 4月1日

改定：2002年10月1日

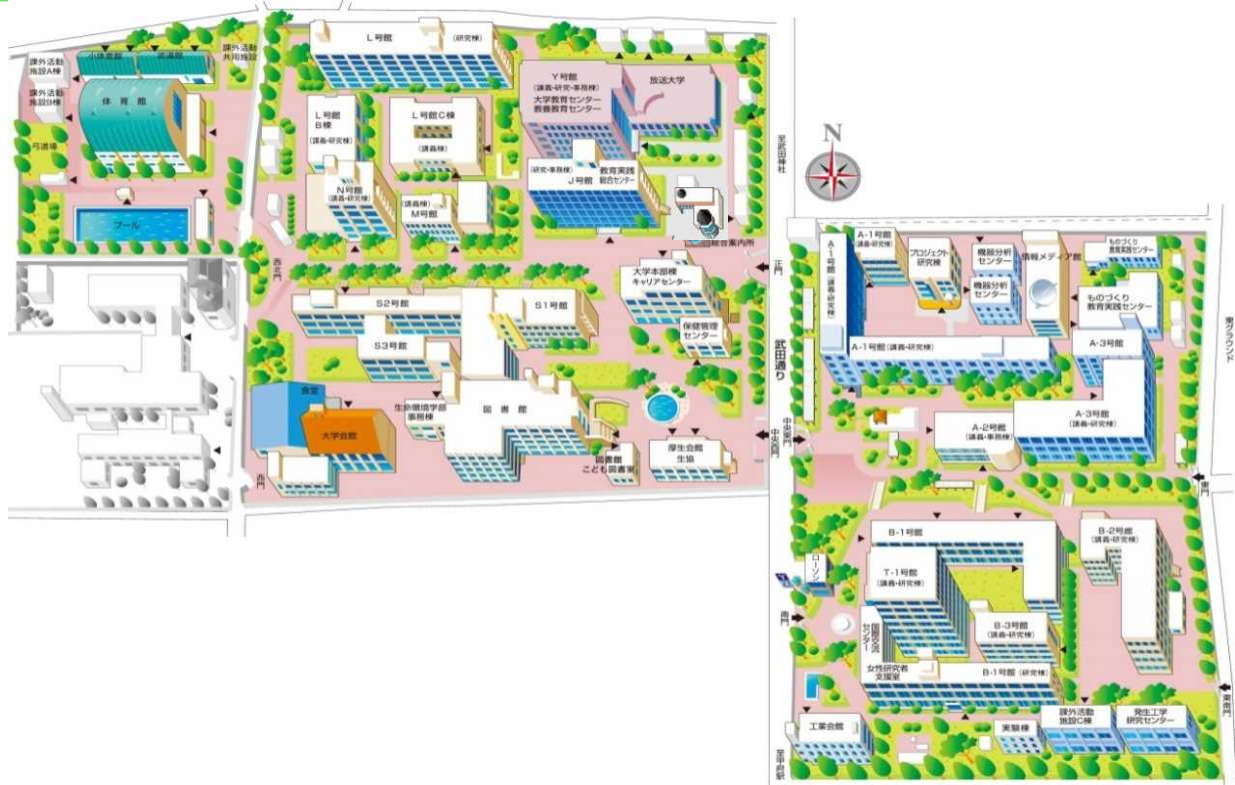
山梨大学長

## 主要な事業所

本学は、山梨県内の2ヶ所（甲府市・中央市）にキャンパスを所有し、4学部（教育学部・医学部・工学部・生命環境学部）を持つ総合大学です。

また、附属4校園（幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校）、ワイン科学研究センター、クリスタル科学研究センター、クリーンエネルギー研究センター、燃料電池ナノ材料研究センター等の施設を甲府市内に持ち、活動を行っております。

### 甲府キャンパス 甲府市武田4-4-37

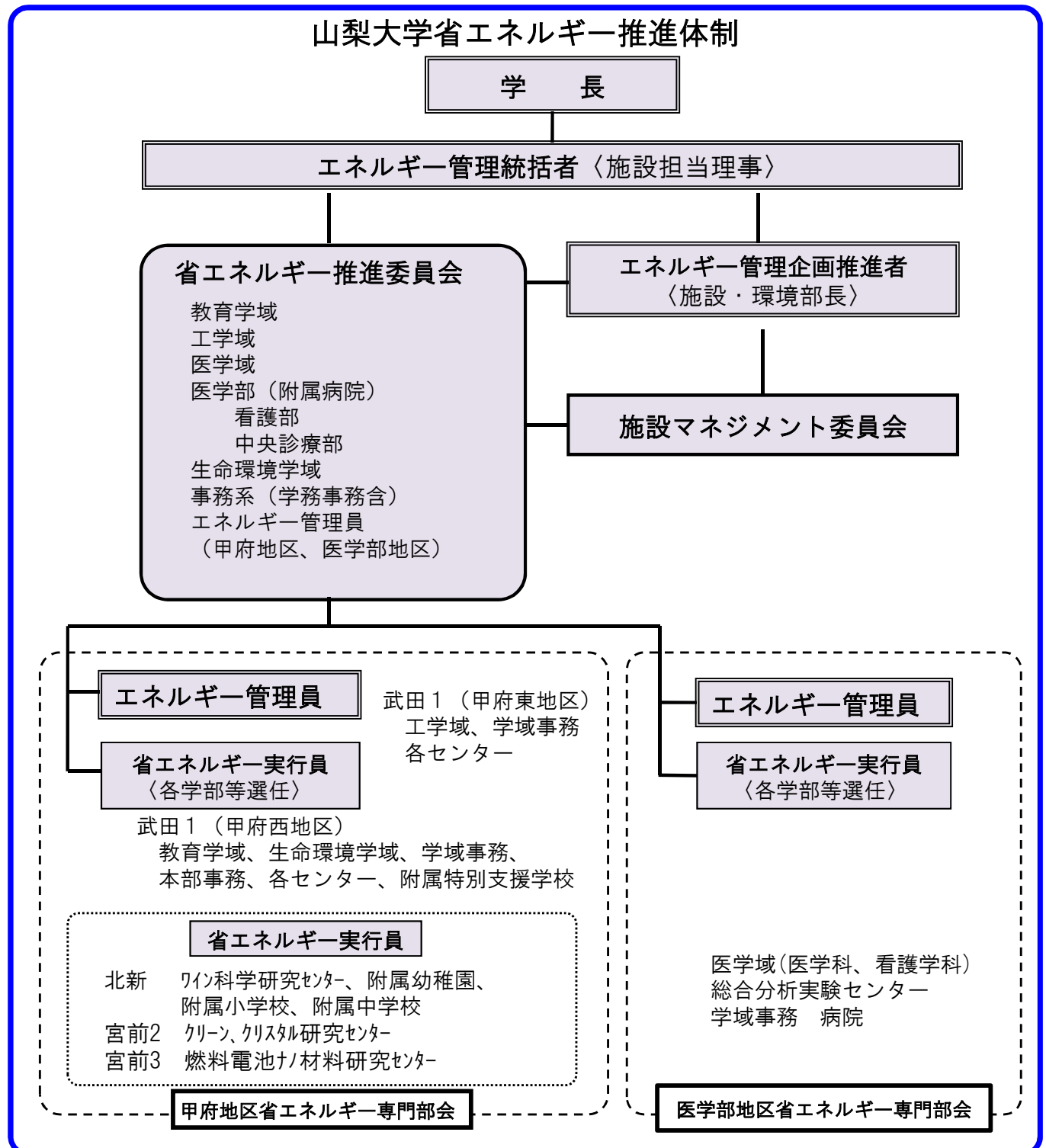


### 医学部キャンパス 中央市下河東1110



## 環境活動の体制

2010年4月に「エネルギーの使用の合理化に関する法律」が改正され、省エネ体制においても、エネルギー統括管理者の選任(役員クラスの参画)及びエネルギー統括管理者を補佐するエネルギー企画推進者の選任(実務管理者)が義務づけられました。また、2012年4月生命環境学部創設、今後より一層省エネルギーを推進するため、2012年4月1日より、「国立大学法人山梨大学エネルギーの使用の合理化に関する規程」及び「国立大学法人山梨大学省エネルギー推進委員会要項」の改正を行い、省エネルギー推進委員会委員及び省エネルギー実行委員の選出を行いました。



## 環境配慮の目標

2020年度は、下記の省エネルギー対策基本方針及び削減目標等を策定しました。

### 1. 基本方針

山梨大学の構成員は自発的・積極的に省エネルギー活動に取り組む。  
省エネルギーの目標を設定する。  
省エネルギーの活動状況を、大学ホームページなどを通じ公表する。

### 2. 削減目標

#### (1) 中期目標

3カ年計画の目標は、2018年度を基準にエネルギー使用に係る原単位(43.87( $\ell$ / $\text{km}^2$ ))を毎年1%削減する。(2019年度～2021年度)

#### <達成状況>

2020年度のエネルギー使用量の原単位(原油換算)は43.04( $\ell$ / $\text{km}^2$ )で、1.9%の削減となり、目標は達成された。

#### (2) 年度目標

電力及びガスの使用量数値目標は、前年度のエネルギー使用量より、1%の削減する。

#### <達成状況>

- ・ 電気の使用量は前年度より甲府キャンパスで3.8%の減となり、目標は達成された。<sup>※1</sup>  
また、医学部キャンパスでは5.9%の増となり、目標は達成されなかった。<sup>※1</sup>
- ・ ガスの使用量は前年度より甲府キャンパスで0.8%の減となり、目標は達成されなかった。<sup>※</sup>  
また、医学部キャンパスでは2.8%の減となり、目標は達成された。<sup>※2</sup>

### 3. 省エネルギー運用基準

項目	運用基準
空調期間の標準設定	冷房:7月1日～9月11日 暖房:11月16日～3月31日
一般室内空調基準温度	冷房:28℃ 暖房:19℃
不使用時の機器停止等	休み時間の照明一斉消灯 使用していない部屋の空調停止・照明消灯 業務時間外(昼休み・長時間の空席時)のパソコン電源OFF 夜間、休日のコピー機、給湯ポット等の電源停止
機器の清掃	冷暖房シーズン前の空調機のフィルター清掃の実施 照明器具の清掃(蛍光灯の反射板清掃)1回/年
ブラインド等の有効利用	窓ブラインド活用による空調負荷低減

省エネルギー推進委員会

※1 本誌P.8 電力使用量参照

※2 本誌P.8 ガス使用量参照





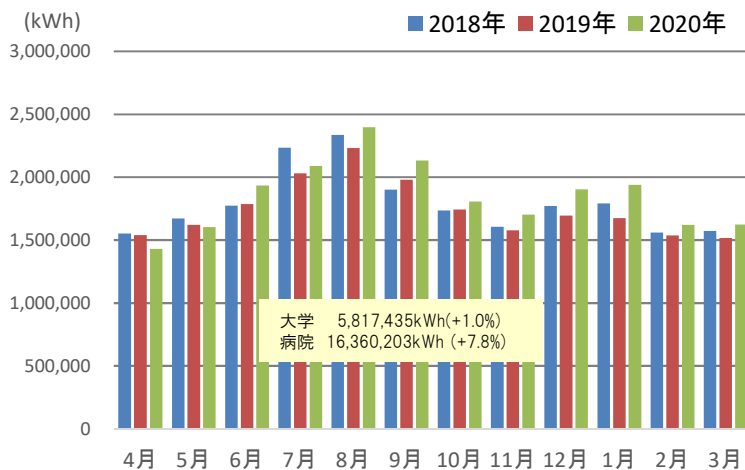
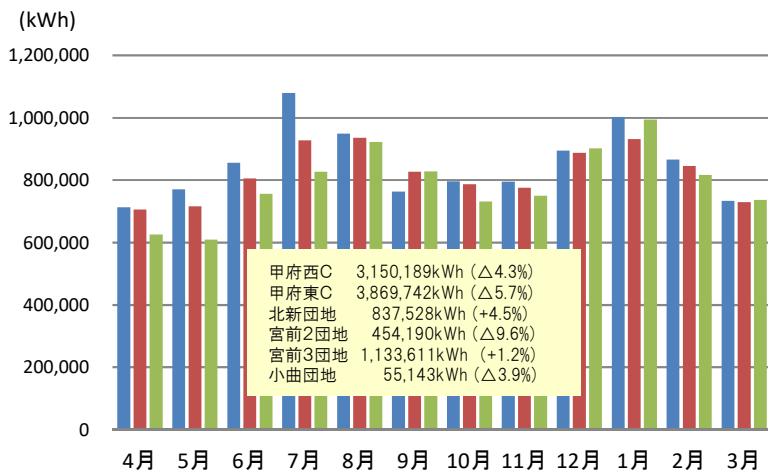
# 事業活動に伴う環境への負荷（電力・ガス・重油使用量）

本学の2020年度の事業活動に伴う環境への負荷は次のとおりです。

## ●電力使用量

【甲府キャンパス】 9,500,403kWh（前年比 △3.8%）

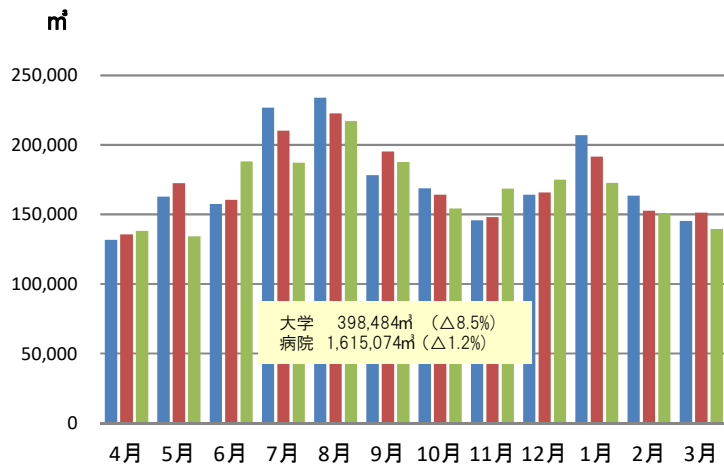
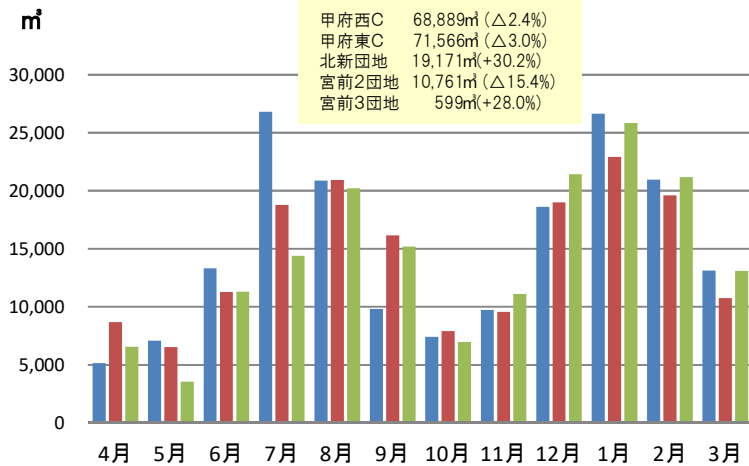
【医学部キャンパス】 22,177,638kWh（前年比 +5.9%）



## ●ガス使用量

【甲府キャンパス】 170,986m<sup>3</sup>（前年比 △0.8%）

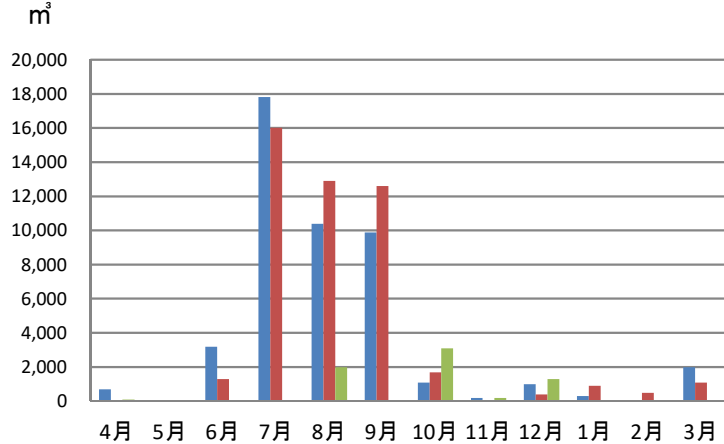
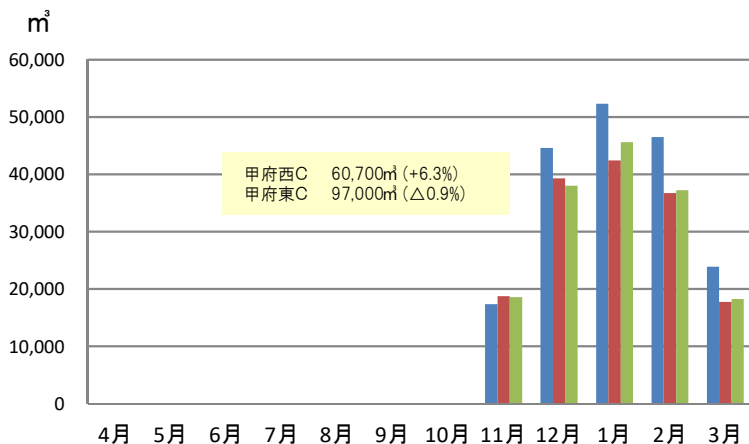
【医学部キャンパス】 2,013,558m<sup>3</sup>（前年比 △2.8%）



## ●重油使用量

【甲府キャンパス】 157,700m<sup>3</sup>（前年比 +1.7%）

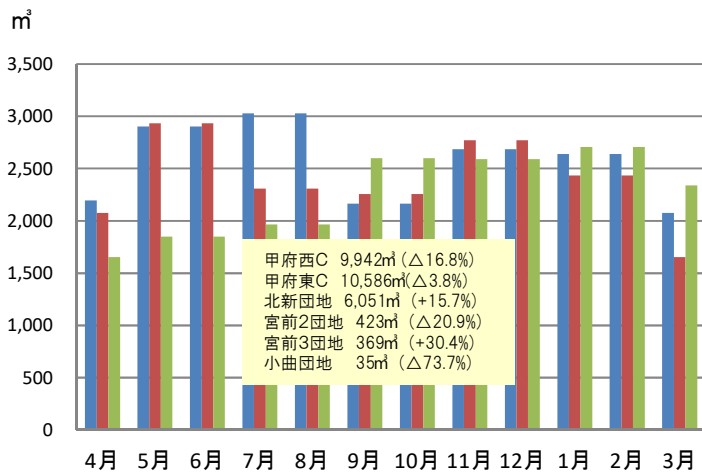
【医学部キャンパス】 6,700m<sup>3</sup>（前年比 △85.9%）



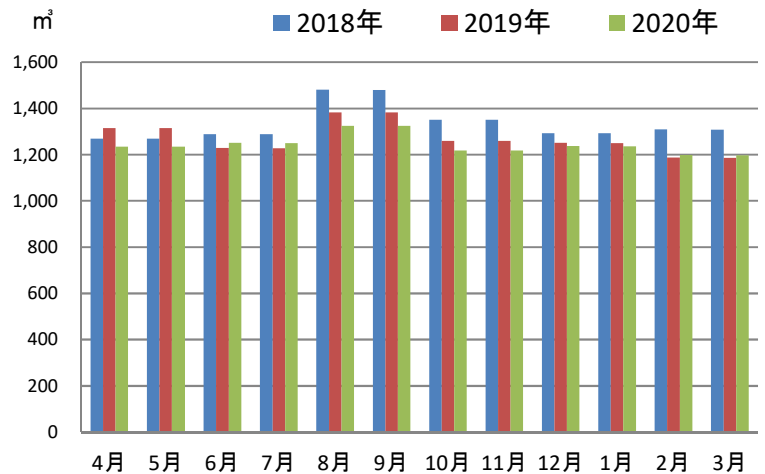
## 事業活動に伴う環境への負荷（上水・井水・下水使用量）

### ●上水使用量

【甲府キャンパス】 27,406m<sup>3</sup>（前年比 △5.9%）

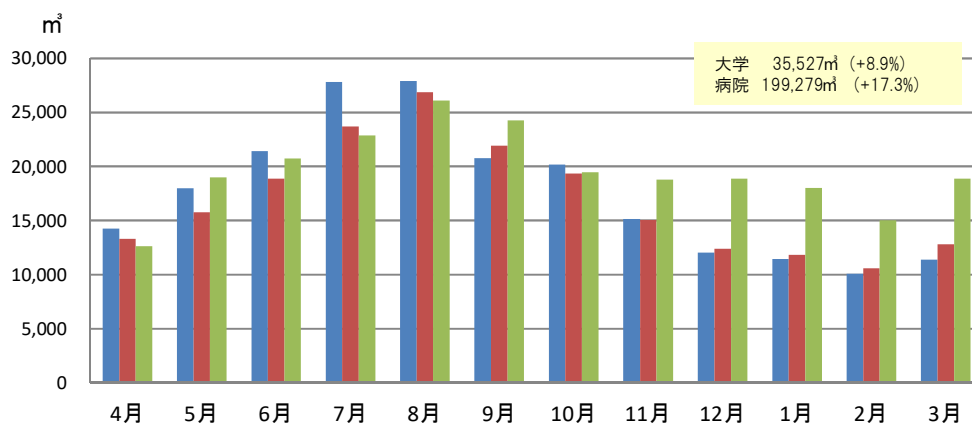


【医学部キャンパス】 14,923m<sup>3</sup>（前年比 △2.1%）  
 <井水9に対し市水1の割合で供給>



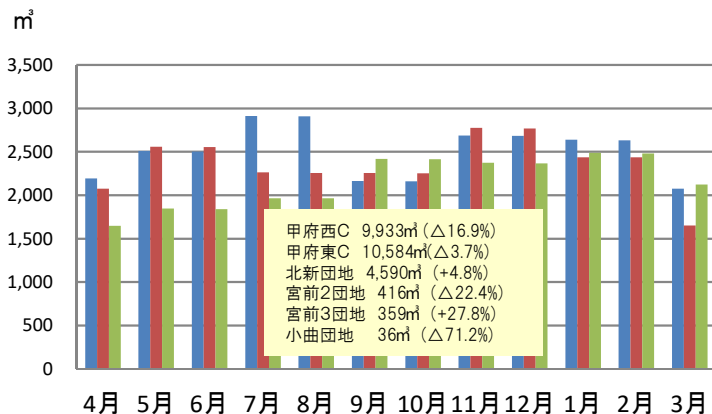
### ●井水使用量

【医学部キャンパス】 234,806m<sup>3</sup>（前年比 +15.9%）

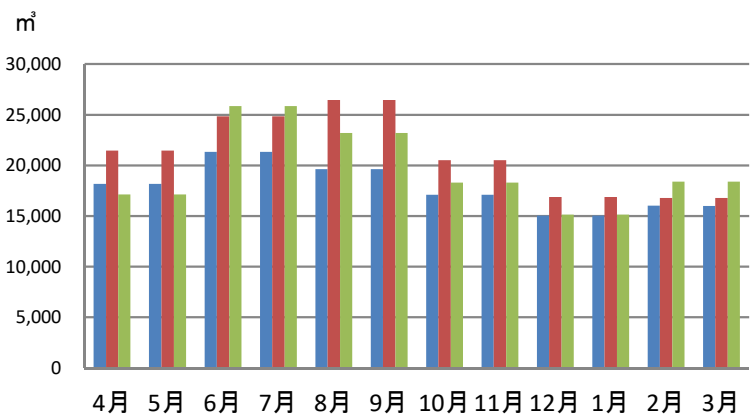


### ●下水使用量

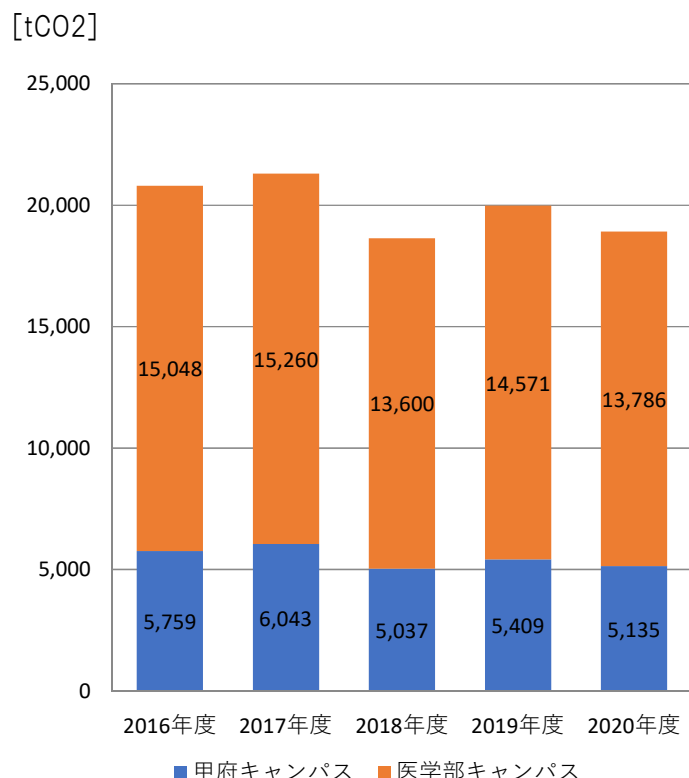
【甲府キャンパス】 25,918m<sup>3</sup>（前年比 △8.3%）



【医学部キャンパス】 235,914m<sup>3</sup>（前年比 △7.0%）



## 事業活動に伴う環境への負荷（二酸化炭素排出量）



(注) CO<sub>2</sub>削減量は東京電力の排出係数を使用

甲府キャンパス					
	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
A重油	523	526	501	420	428
都市ガス	375	388	384	368	366
昼間買電	3,280	3,479	2,820	3,147	2,959
夜間買電	1,581	1,650	1,332	1,474	1,382
合計	5,759	6,043	5,037	5,409	5,135
削減率(前年度比)		4.9%	-16.6%	7.4%	-5.1%
医学部キャンパス					
A重油	133	117	127	127	19
都市ガス	4,528	4,816	4,681	4,647	4,519
昼間買電	6,796	6,750	5,735	6,389	5,983
夜間買電	3,591	3,577	3,057	3,408	3,265
合計	15,048	15,260	13,600	14,571	13,786
削減率(前年度比)		1.4%	-10.9%	7.1%	-5.4%
両キャンパス 合計					
CO <sub>2</sub> 排出量	20,807	21,303	18,637	19,980	18,921
削減率(前年度比)		2.4%	-12.5%	7.2%	-5.3%

## 環境関連法への対応状況

PCB(ポリ塩化ビフェニル)は、その特性(絶縁性・不燃性)により、トランスやコンデンサの絶縁油や潤滑油、インクなど様々な用途に利用されていましたが、強い毒性や中毒症状等の健康障害や環境汚染の危険性が指摘され、1973年に製造等が禁止されています。

しかし、それまでに広く普及していたため、政府はPCBの確実に適正な処理を進めるため、2001年6月22日に「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」を公布し、同年7月15日より施行しました。

この法律では、事業者にはPCBの保管状況の届出や、2023年3月までのPCBの処理が義務付けられています。

本学でもこの法律を順守し、保有しているPCB機器の洗い出し、保管とその届出を行い、処理施設(本学のある山梨県では北海道室蘭市の施設)での処理を、2014年度は高濃度PCB機器(コンデンサ)、2015年度は蛍光灯安定器・高濃度低圧コンデンサについて実施・完了しており、全ての高濃度PCB油等の高濃度PCBに関して2017年度に処理を終了しました。





## 環境配慮に係る教育

### 環境教育の推進

山梨大学では、「全学共通教育科目」及び「専門科目」において、環境に関する教育を幅広く実施しています。また、「連続市民講座」において環境に関する科目を開設し、広く市民に向けて環境に関する講座を実施しています。2020年度に実施した環境関連科目は以下の通りです。

環境関連項目	※青字：公開講座・市民開放授業， 緑字：連続市民講座・市民講座
全学共通教育科目	
家庭の中のエレクトロニクス，生命科学と社会，ガイア仮説と地球システム科学，自然災害と都市防災，自然科学と環境，地球環境化学とエネルギー，プラスチックの科学，都市計画，環境生態学，安全環境化学	
教育学部	
衣生活論，地理学概論，住環境論，生物学一般，地学一般，衛生学	
教育学研究科	
医学部	
社会環境医学，社会環境医学実習，環境保健，地域看護学実習2(環境保健・産業看護実習)，看護環境論	
工学部	
防災工学Ⅰ，衛生工学及び演習，環境工学概論，環境生物工学，水文学，水処理工学，廃棄物管理工学，総合河川学，景観工学，環境浄化技術特論，環境保全工学，国際協力論，環境統計解析，地理情報システム，水文水資源学特論，陸水水質評価特論，暮らしと健康，流域管理特論，流域計画論，電池工学	
大学院(工学領域)	
燃料電池設計特論第一・第二，燃料電池設計特論，燃料電池設計科学特論，電気化学材料特論，燃料電池設計化学特論，太陽エネルギー変換工学特論第一，太陽エネルギー変換工学特論，エネルギー量子化学特論，表面・界面科学特論第一・第二，表面・界面科学特論，表面科学特論，電極触媒設計特論，電極触媒設計特論第一・第二，グリーンエネルギー科学・技術英語特論上級， <b>甲府盆地の地質・地形と水環境</b> ， <b>山梨県の水環境</b>	
生命環境学部	
共生科学入門，生命環境基礎ゼミ，農作物生産学，気象学，微生物生態学，環境情報学及び演習，環境科学基礎実験，水圏科学，土壌科学，生態学，地球科学，大気環境科学，経済学概論，地方財政学，エネルギーマネジメント，環境経済政策論，環境政治論，地域計画学，科学技術政策論，政治学概論，行政法Ⅱ，社会科学入門	
大学院(生命環境学領域)	
科学者倫理，生命環境学特論，応用生命環境学特論，生命環境学演習A・B，生命環境学研究A・B，応用微生物学特論，生物有機化学特論，環境微生物資源学特論，農作物栽培生理学特論，気水圏環境動態解析特論，生物圏環境動態解析特論，環境計測評価特論，生物生産環境特論，資源循環型食料生産特論，生物環境適応学特論，環境物理学特論，環境共生圏科学実習，環境資源経済学特論，農業経済学特論，経営学演習，地域計画学特論，エネルギーマネジメント特論，環境政治学特論，地域環境マネジメント演習A・B，地域環境マネジメント研究A・B	

## 環境配慮に係る研究

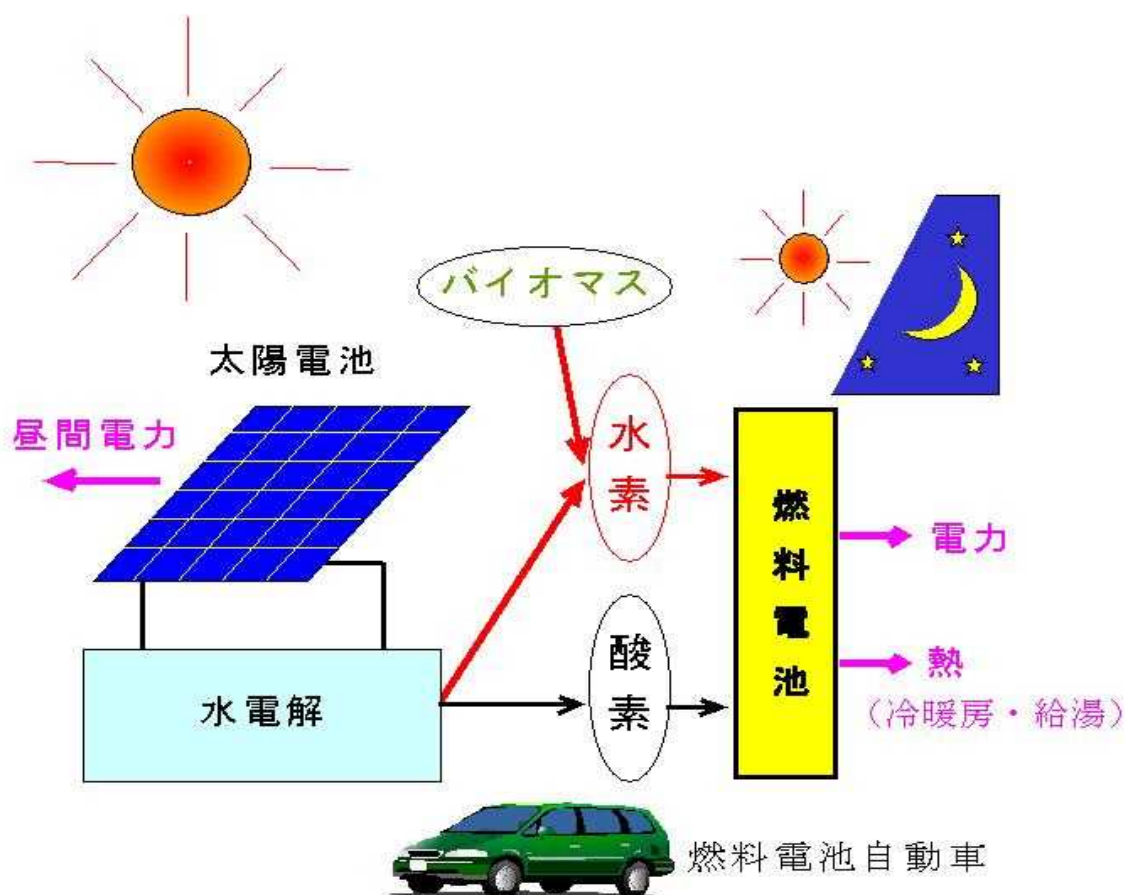
### 環境研究の推進

山梨大学では、環境に関連する研究を行っています。そのうち、先進的な研究例についてご紹介します。

#### ●クリーンエネルギー研究センター

##### ①燃料電池研究部門

燃料電池自動車、家庭用の固体高分子形燃料電池及びシステムの研究及び次世代の火力代替発電用の固体酸化物形燃料電池に関する研究を行っています。上記の燃料電池を逆作動させた水電解による高効率水素製造の研究も進めています。現在、この分野の代表的研究拠点として、科学技術振興機構（JST）やNEDOをはじめ幾つかの大型受託研究、あるいは大手企業との共同研究を実施しています。



##### ②太陽エネルギー変換研究部門

再生可能エネルギーである太陽光から水分解や二酸化炭素還元・固定化による水素、メタノールなどエネルギー有用物質の合成する研究や地熱や人工排熱などあらゆる熱源から発電する研究を、文部科学省科学研究費や財団・企業の研究助成を受け行っています。

## 環境配慮に係る研究

### ●燃料電池ナノ材料研究センター

■研究テーマ：燃料電池等利用の飛躍的拡大に向けた共通課題解決型産学官連携研究開発事業／共通課題解決基盤技術開発／高効率・高出力・高耐久PEFCを実現する革新的材料の研究開発事業 外

■プロジェクト代表者：飯山 明裕 教授

#### ■研究概要

燃料電池は我が国の「エネルギー基本計画（第5次）」において、位置づけが強調された水素エネルギー利用の中心的な役割を担うことが期待され、2018年に国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)は、技術的課題を時系列に整理した「NEDO燃料電池・水素技術開発ロードマップ」を策定し、産学官による技術開発に取り組む重要性が示されました。

その実現のため、燃料電池材料の革新的な研究開発により、低コストで高効率、高出力、高耐久な燃料電池の実用化が産業界から強く要望されており、そのためには、産学官の高度な連携を最大限に活用した研究開発を行うことが必要です。

本センターは、燃料電池の本格普及に資することを目的として、山梨県および関係省庁の絶大なご支援を得て、2008年4月に設立されました。現在は、燃料電池の飛躍的利用拡大を可能にするため、高効率発電および高負荷運転さらには、高耐久起動停止等技術や極限環境下劣化防止等の技術を実現する革新的材料技術開発と高温・低湿度環境下でも作動可能な新規の高分子電解質膜コンセプト及びセラミック触媒技術のコンセプト創出事業を中心に研究邁進しております。

併せて産学官の共同研究や大学院教育にも積極的に関わり、先端的研究成果の創出と当該グリーンエネルギー分野を牽引する研究者・技術者の育成に取り組んでいます。



### 燃料電池NEDOプロジェクト体制



## 環境配慮に係る研究

### ●総合研究部 工学域 機械工学科

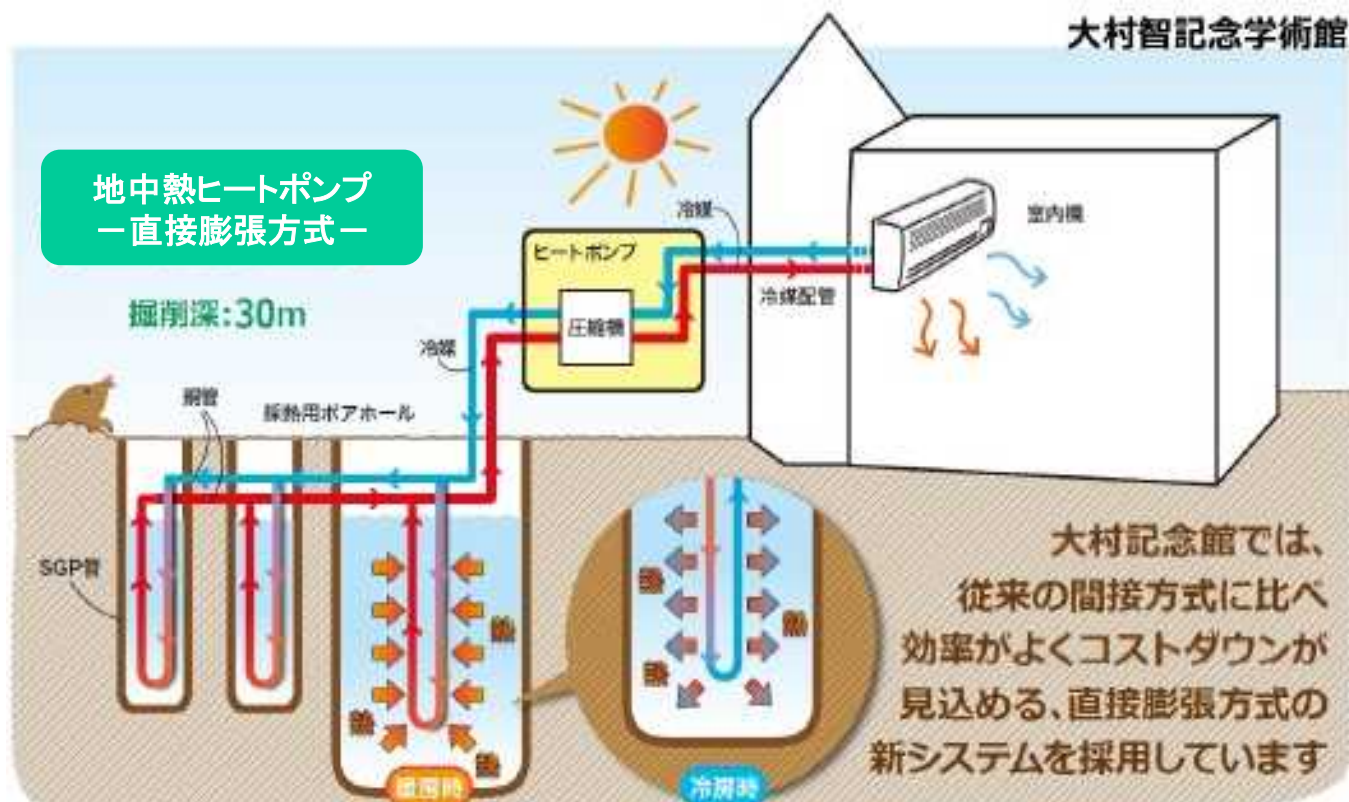
#### ■研究テーマ：地中熱利用の研究

#### ■プロジェクト代表者：武田 哲明 教授

#### ■研究概要

地中熱ヒートポンプ(Ground Source Heat Pump, GSHP)は、空調機として一般的に用いられている空気熱ヒートポンプより、省エネルギー性に優れているとされています。これは、地中の温度が夏の気温よりも低く、冬の気温よりも高い地中熱の特性を利用することによるものです。このGSHPシステムの省エネルギー性をより高める試みとして、空気熱ヒートポンプの冷媒熱交換器を地中に埋設した直接膨張方式GSHPを提案し、研究を進めています。この方法は熱交換媒体である代替フロン冷媒を直接地中に循環させて採放熱を行うものであり、熱交換性能に優れ、ボアホール内に銅管を挿入して、直接土壌と熱交換させるため、従来型の間接方式に必要な不凍液の熱交換器や循環ポンプが不要となるため、部品点数が削減されます。また、熱交換効率向上の観点から間接方式に比べてボアホール深さを短縮できる可能性があり、掘削コストも削減できることが期待されています。

2018年6月に竣工した大村智記念学術館展示室の空調設備として、この直接膨張方式の地中熱ヒートポンプシステムが採用されました。





## 環境配慮に係る研究

### ●国際流域環境研究センター

■研究テーマ：科学技術振興機構（JST）の支援によるSDGs（SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS:持続可能な開発目標）の達成に向けた共創的研究開発プログラム（SOLVE for SDGs）「誰一人水に困らない社会へ：小規模分散型の水供給・処理サービスの開発・可能性検証」

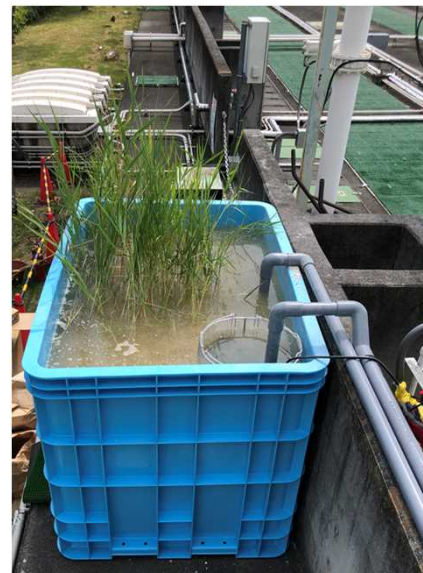
■プロジェクト代表者：西田 継 教授

#### ■研究概要

国際流域環境研究センターに所属する研究者は基本的に環境に関する研究を推進していますが、ここでは環境問題の解決の観点から具体的な社会実装を目標としたプロジェクトを紹介します。

我々のプロジェクトは、日本国内で少子高齢化、観光、災害などにより移住、分散居住、一時的人口の増加が進み、それに伴って上下水道サービスが不十分となる地域の問題を解決することを目指しています。環境問題を専門とする教員が集結し、山梨の低密度人口地域を対象として、（1）小規模で安定した水源の探索、（2）小型で持続的な維持管理ができる水処理方法の開発、（3）経済的および社会的な利点を従来技術と比較する方法の開発を行っています。従来の巨大集中型の社会基盤を見直して、新しいサービス体系として地域社会に提案するために、山梨大学の研究者に加え、協働実施者として甲州市上下水道課、共同研究者として山梨県立大学国際政策学部教員、甲府市や水関係の民間企業が参加し、社会実装とSDGs達成の実現に向けて研究に取り組んでいます。

小型装置による下水の高度処理に関する実証試験の様子  
（笛吹市峡東浄化センター）



人工湿地による下水処理の実証試験の様子  
（笛吹市峡東浄化センター）

甲州市上下水道課および鍛冶屋地区小規模水道組合長との意見交換の様子



## 学生の活動

環境に関連する学生の活動をご紹介します。

### ●国際流域環境研究センター

■活動テーマ：研究プロジェクトへの参加と海外研修プログラム

■代表者：西田 継 教授

#### ■活動概要

我々の研究プロジェクト（SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた共創的研究開発プログラム「誰一人水に困らない社会へ：小規模分散型の水供給・処理サービスの開発・可能性検証」）では、次世代の担い手の育成にも力を入れています。プロジェクトに関わる教員の研究室に配属された学士、修士、博士の学生たちにこのプロジェクトへの参加を促し、教員と共に社会的に重要な事業に携わり、環境問題の立場から SDGsの「誰一人取り残さない」国際目標の達成に貢献しているという当事者意識を持つよう、指導・誘導しています。これまでに、学生は学士課程と大学院を合わせて8人の学生が、学位論文作成の一部として研究活動に参加しています。また、国際流域環境研究センターは横浜市水道局との共同研究も行っており、大学院生2人が実際に水道水の異臭味問題を解決するための研究を行いました。

一方、大学院流域環境科学特別教育プログラムでは、新型コロナ感染対策により対面による活動が制約を受ける中、プログラム生が実施している水環境問題に関する研究の成果について全プログラム生（修士14名、博士11名）によるコンペ形式のオンデマンドプレゼンを実施し、他分野における研究内容の理解と社会実装のための多面的な考察を行いました。

#### Online Salon 2020

[How to watch the video](#)

D3



D2



M2



D1

コンペ形式のオンデマンドプレゼンの様子

## 国立大学法人山梨大学 環境報告書 2021

- 対象団地・所在地 : 甲府キャンパス  
山梨県甲府市武田四丁目4-37  
医学部キャンパス  
山梨県中央市下河東1110
- 対象期間 : 2020年度  
2020年4月1日～2021年3月31日
- 作成部署 : 国立大学法人山梨大学 施設・環境部
- 問い合わせ先 : 国立大学法人山梨大学 施設・環境部施設企画課  
住 所 山梨県甲府市武田四丁目3-11  
T E L 055-220-8501 (直通)  
F A X 055-220-8600  
e-mail skikaku@yamanashi.ac.jp